

パネルディスカッション II

診療所が面白い～オンリーワンの〇〇〇〇

■発表者

岩手県:国保金ヶ崎歯科診療所歯科長

高橋 通訓 氏 … p 1

三重県:紀宝町立相野谷診療所長

森本 真之助 氏 … p 17

鳥取県:大山町国民健康保険大山診療所長

井上 和興 氏 … P28

■講評

国診協副会長

中村 伸一

福井県:おおい町国民健康保険名田庄診療所長

■司会

国診協 診療所委員会委員長

和田 智子

秋田県:にかほ市国民健康保険小出診療所長

診療所が面白い～オンリーワンの〇〇〇〇

岩手県：国保金ケ崎歯科診療所 歯科長

高橋 通訓

昭和63年大学の医局を出て最初の赴任地は、秋田県本荘市の国立秋田病院でした。後に秋田病院は国立病院の統廃合で移譲対象となり現在は道川に、事実上私の勤務した病院は無くなりました。岩手に戻った私は、金ケ崎町か田老町（現在宮古市）のどちらかへ、結果金ケ崎に行くことになりました。一方田老歯科診療所は、新築の3年後震災で津波に流され、そのまま廃止になりました。

金ケ崎は幸いなことに現在も存続していますが、

平成2年着任したときの国保金ケ崎病院から、現在の金ケ崎診療所、歯科診療所に至る経緯も決して平坦ではありませんでした。

慢性的な赤字、老朽化、綱渡りの医師確保、歯科廃止の危機、強行採決による病院廃止、無床診療所へ、そして震災、..しかしやがて徐々に風向きが変わり、常勤医歯科を含め4名、診療科10科、建物も新しくなり、気の置けないドクターたちばかり、医局は和気あいあい、苦難の 때가 記憶から薄れかけそうなこの頃ですが、この先をそろそろ考えないと..

経営難、老朽化、医師不足、歯科廃止？、
病院廃止、震災・・・から
活気ある無床診療所へ



オンリーワンの
にぎやかな医局

昭和のおわり頃まで岩手県では、歯学部にも公的医療機関に勤務すれば、学費の返済を免除される奨学金制度がありました。

定員、医学部 10 名、歯学部 3 名



岩手医大 内丸旧館

S63年 広い松林の中にある
結核病棟を中心とした
国立秋田病院へ



私が岩手に戻ったあと
秋田病院は移譲対象となり
他の病院に統合されることに

・ ・ ・ ・

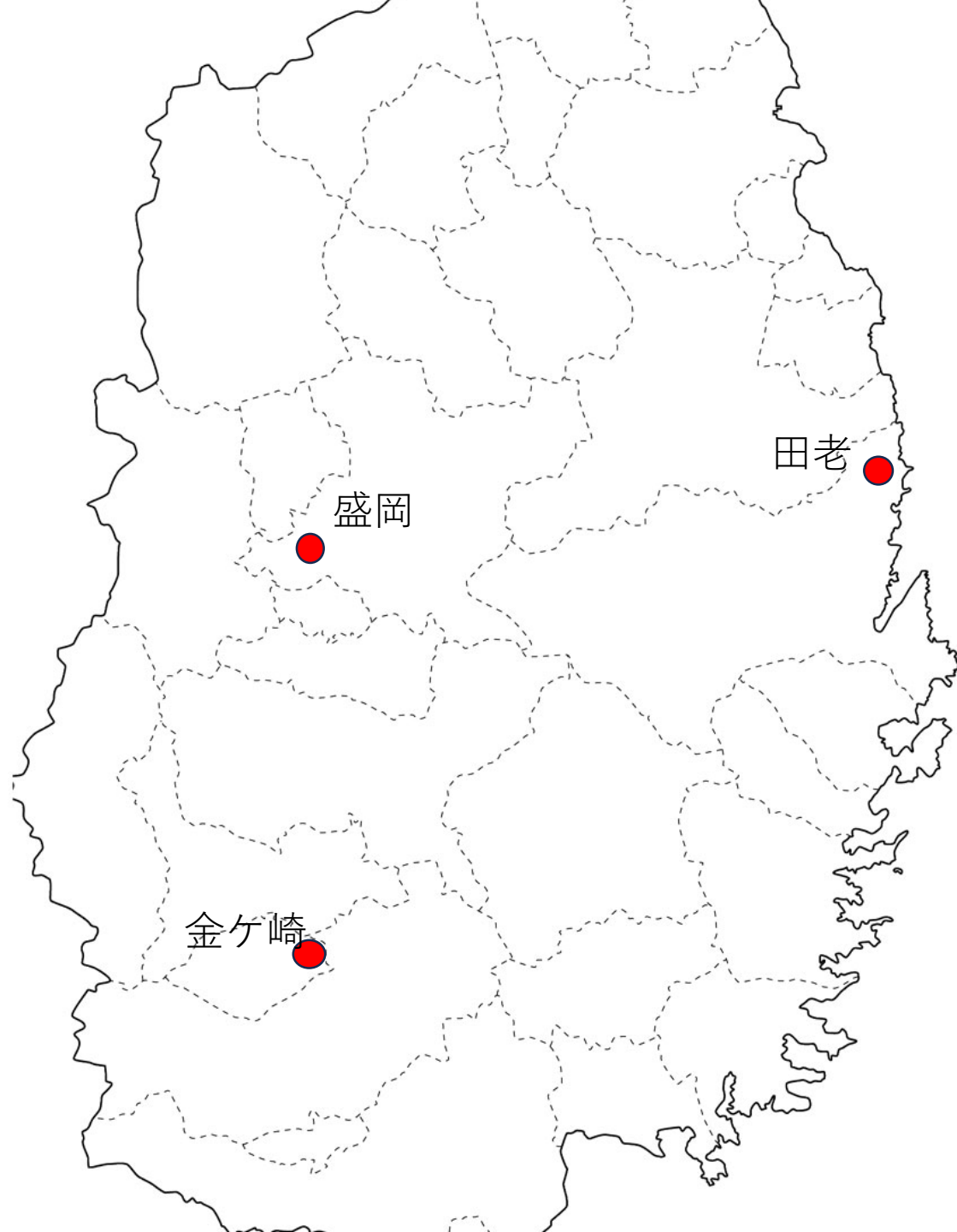
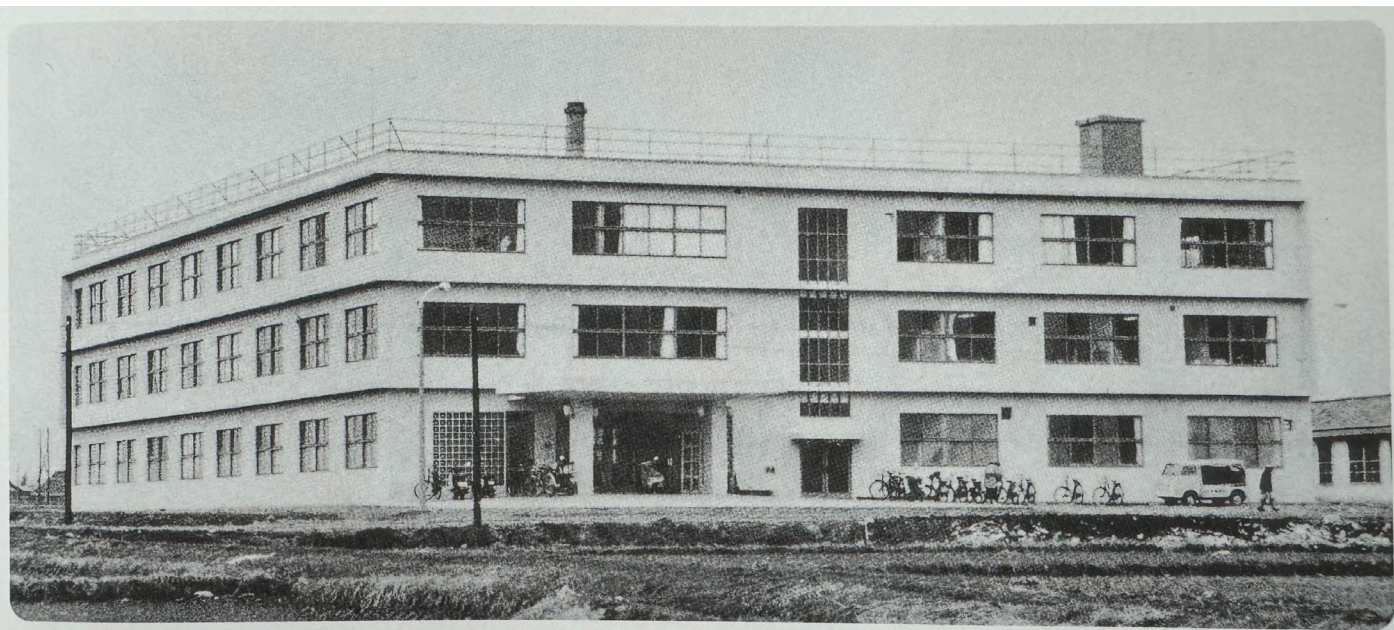
秋田病院に入院している重度心身障碍児は、一人での生活が困難で、職員の介護が必要です。また病弱や不登校の児童も入院し、隣にある秋田県立養護学校と一体となって教育と医療の連携をはかってきました。

このような秋田病院は、地域ボランティアとの30年にわたる絆にも支えられ、地域医療の拠点となっています。

この秋田病院が移譲対象とされて以降、予算は削減、医師の補充もなく、医療機器は購入できず、病棟を閉鎖するなど
いわゆる「立ち枯れ作戦」が行われています。
・ ・ ・ ・

最終的に金ヶ崎に勤務することになりました。

当時の国保直診施として県内で一番老朽化していたのが田老の診療所と金ヶ崎病院でした。





- 一階が医科外来
- 二階が歯科と病棟
- 三階も病棟



2階にもかかわらず、たくさんの車椅子患者さんが来院し狭い待合室は大変で、廊下で待ってもらうことも。

金ヶ崎町は県内最大級の工業団地をかかえ
一人当たりの所得も盛岡について多く
東北自動車道IC、新幹線水沢江刺駅まで車で20分
4号線、東北本線も通っているが全て東に集中しており
西側から町中心部への
アクセスは悪い

北の北上市には県立北上病院（後の中部病院）
北上済生会病院、

東の江刺市（後の奥州市）には県立江刺病院、

南の水沢市（後の奥州市）には県立胆沢病院、
水沢市立病院

南西の胆沢町（後の奥州市）には国保若柳病院
（現在国保まごころ病院）



平成16年 研修医制度必須 内科引き上げ

平成17年9/30日 **歯科廃止**を言われ
る

10/6日 町長と面会

10/25日 **病院廃止発表**

平成18年2月 **病院廃止議会決定**

3月 新人同士の町長選挙

県立病院での医師なりすまし事件

盛岡地検は8日、以前の厚相の公印などを偽造したとして公印偽造の疑いで逮捕、送検された大阪市の無職女性（44）について、処分保留で釈放した。女性は岩手県宮古市の県立宮古病院の採用で、医師免許がないのに医師になりすましたとする医師法違反容疑についても処分保留となっており、地検は「捜査を継続した上で、処分を判断する」としている。

岩手県警によると、女性は循環器科医師を募集していた宮古病院に「テレビの報道番組で宮古市が医師不足と知った。地域医療に興味がある」などと応募。面談などを経て今年5月に着任予定だったが、医師免許証の写しに大臣の印がないなど不審な点があることに病院側が気付いて県警に相談し、医師でなかったことが発覚したとされる。（共同）

胆江日新聞

株式会社 胆江日日新聞社
本社 水沢市朝町8番地
電話 (0197) 24-2244
FAX (0197) 24-1281
江刺支局 江刺市大通り4-1
電話 (0197) 31-1801
FAX (0197) 31-1800
©胆江日日新聞社2006

温泉
ご法事
孫抱き
各種祝い
5名様から承ります。

薬師堂温泉
〒990-0271 水沢市佐倉河原師堂27
☎0197-23-4126
☎0120-28-8160

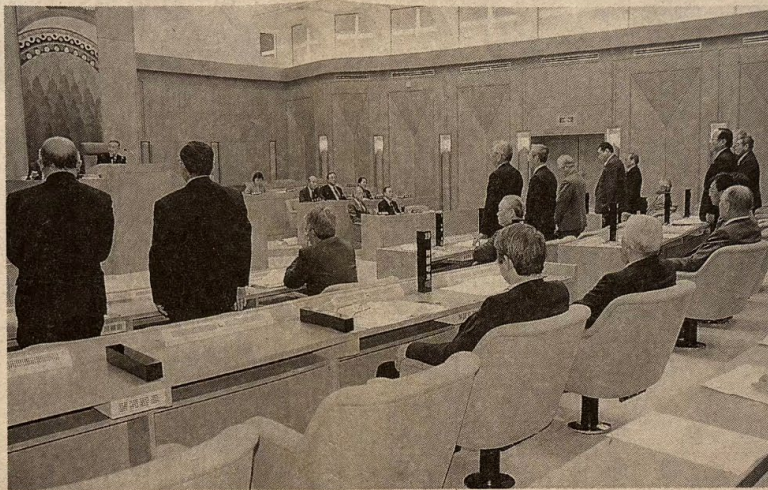
きょうの紙面
知っ得情報
これが一番 今週の図書館
県が新年度予算案を発表
景観形成計画案を答申
衣川村議会で閉場式

無床診療所化で決着

国保金ヶ崎病院

町議会が廃止案可決 存続派 抵抗するも届かず

金ヶ崎町の国保金ヶ崎病院の無床診療所化問題で、町議会は6日臨時会を開き、関連議案3件を原案通り可決した。これにより、同病院は6月から無床診療所となることが決まった。病院存続を求める議員は修正議案を提出するなどして、町は最終的に町の方針がすべて認められた。町は今後、入院患者の転院手続きも町職員労働組合(佐藤茂志委員長)との交渉を進め、無床診療所へのスムーズな移行を図りたい考えだ。



金ヶ崎町議会議が賛成多数で可決した金ヶ崎病院廃止議案の採決

6月の実施へ準備

焦点となっていた病院廃止議案では質疑の後、千葉正幸氏が同議案を同病院問題調査検討特別委員会に付託し再度調査、検討すべきとする動議を提出。採決の結果、賛成8、反対11の賛成少数で否決された。

原案と修正案の議論が行われ、正案にも反対の立場を表明した。議員らは、原案反対の立場で梅小原正好の2氏成、修正案反対

原案には小関新喜、佐藤の2氏が賛成の立場で、千葉正幸、小原正好の2氏が反対の立場でそれぞれ討論、起立採決の結果、賛成11、反対8の賛成多数で可決した。1月31日の臨時会の条例改正の議決と同じ顔ぶれだった。

【解説】国保金ヶ崎病院の無床診療所化問題で、挿れられた金ヶ崎町。結局、町側の方針発表から約3カ月で町内に入院施設がなくなる事が決まった。1度否決された病院廃止議案を過半数議決してから再提案するなど、強引とも映る町側の手法に批判が集まった。

手順

町は特別議決を除外する条例案を強硬手段とすることで無床化の手順に問題はないと述べたと言わざる。

新人2氏の対決へ

告示まで 前哨戦 熱帯びる

金ヶ崎町長選

任期満了に伴う金ヶ崎町長選は、3月7日の告示まで1カ月となった。元町住民課長で行政書士



及川暉久氏 町建設課長



高橋由一氏 町建設課長

住民主役訴え 及川氏 高橋氏 即戦力を強調

展開。49票差で惜敗した。昨年11月上旬に出馬を表明。「町民一人一人の意見を大切にしたい。住民主役のまちづくり」を訴え、協働型のまちづくりの推進などを主要施策に掲げる。

高橋氏は、勇退する高橋町長の後継指名を受け、現町政の継続と発展、第8次総合発展計画(06-10年度)の実現を掲げて、昨年11月中旬に出馬を表明した。

町議13人が支持、高橋町長の後援会の協力を得ながら、今後は集会所を繰返すなどし、支持拡大に努める。

町は特別議決を除外する条例案を強硬手段とすることで無床化の手順に問題はないと述べたと言わざる。

合併後の市政運営
山積する諸課題に

見つめる 地域医療

金ヶ崎病院無床化の課題



「国の動向や県の医療計画などが大きく変化してきている。金ヶ崎町の医療体制が今後どうあれ、ばいはいかは重要な課題だ。金ヶ崎診療所の建て替えと有床化を目指し、協議を進める」

18日夜、町役場で開かれた第2回診療所建設検討委員会（委員長・千葉政幸助役、委員11人）で、高橋由一町長はあらためて金ヶ崎診療所の有床化に向けて取り組み考えを強調した。

が必死に頑張る姿が診療所を変えざるを得ない。有床診療所を目指すなら、もっと皆で努力しなければいけない——などといった意見が出された。

町側は胆江医療圏の必要ベッド数との整合性を図りながら、第8次町総合発展計画基本計画（06～10年度）の期間内の有床診療所の実現に言及。千葉助役も「5年以内には建設したい」と前向きだ。同検討委は今後、公設民営化も選択肢に含めた運営主体のあり方や診療所の建設候補地などを論議。一定の方向性が定まれば、2月下旬

町、有床化に前向き



有床化への道筋を模索する金ヶ崎診療所建設検討委員会＝18日夜、町役場

にも中間報告する見通し。その後、町が住民意見を集約。それを受けて同検討委としての考えをまとめることにしている。

病院から診療所への転換は、無床にすることで職員体制を見直し、コスト削減を図り、経営の健全化と赤字体質からの脱却が狙い。05年度病院会

経営改善が当面の課題

成、修正案反対の立場で

反対書を出したとされること

ことは不可能」と指摘し、病院存続を訴えている」として

調査し、

しているが、すべての問題の根本は病院が町にとって重要な施設であるにもかかわらず、あまりにも短い期間で決定したことにある。町側の手順

是非を問うこと、町の施策を進める上での手法の善しあしこの2つが議論の焦点になった。「財政論抜きに福祉、医療の政策はありえない」と主張する町側と、

数人の議員が町長の責任を追及した。高橋町長は「責任は当然あるわけで、今に至る状況を十分に分かっている」としたが、財政問題を優先させ

るためのものは山積して町長選にも与えよう。今後ますます波紋を広げられる。

手順と手法に問題あり

町民不安にどう対処

と手法に問題の本質があったと言わざるを得ない。

い」と主張する町側と、財政の悪化などに理解を示しつつも入院施設の存続を求めた議員との議論は最後まで平行線をたどった。

る手法を変えなかった。無床診療所が決まったものの、職員の退職や医師確保、高齢者を中心とした町民の不安を解消す

分には説明を求められて

町は特別議決から病院を除外する条例改正を行う「強硬手段」を取った。このため無床診療所化の

6日の臨時議会では、

奥州市と

あ

自立のまちづくり
前には後援会（松本
長）を設立し、町
支部を設置。昨年

無床診療所化問題
に揺れた金ヶ崎
局、町側の方針発
約3カ月で町内に
設けなくなるこ
った。1度否決さ
院廃止議案を過半
にしてから再提案
、強引とも映る
手法に批判が集ま

紀雄町長は「やむ
れずにやった」と

自立のまちづくり

前には後援会（松本
長）を設立し、町
支部を設置。昨年

病棟閉鎖後 歯科は新築まで11年間廃墟のような場所で診療

常勤の外科医が開業で辞めた翌年の平成20年、県南の県立病院副院長をしていた**現A所長が副所長として赴任**

しかしその年の暮れに**S所長が急に退職**して盛岡の私立の病院へ、**所長になったA先生**は前任地の病院から自治出身の現内科長を呼びます、まずは一息

2年程すると内科長が自治医科大へ戻ることに、そこで神奈川で外科医として勤務していた私の大学時代の**同級生F先生**が2月着任、その2週間後**東日本大震災**（H23）が来ました。

金ヶ崎診療所、 歯科診療所

常勤医

泌尿器 外科

内科 歯科

計4名

非常勤

婦人科

循環器

神経内科

整形外科

呼吸器科

眼科





これからの診療所、 歯科診療所の課題

常勤医師、歯科医師の高齢化
(定年70歳)
次の常勤医の確保

特に歯科では一人体制で診療している
のでタイミングよく長く勤務してく
れる歯科医師が見つかるかどうか。

地域での歯科衛生士不足も常態化。



診療所はおもしろい！ オンリーワンのアドベンチャー

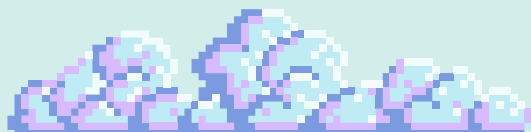
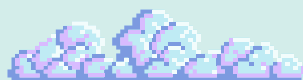
三重県：紀宝町立相野谷診療所長

森本 真之助

私は地域医療の現場で診療所医師をしている日常をおもしろいと感じています。今回、地域包括医療・ケアセミナーにお招きいただき話す内容は、私の主観的な主張がほとんどになると思います。しかし、それらを冒険という切り口で表現することにより、医学生や研修医、若手医師のみなさんに対して、地域医療の（特に診療所の）もつ魅力の一端をわかりやすく共有できるのではないかと考えました。それは単に自己満足のおもしろさの共有にとどまらず、脈々と受け継がれてきた先人の「地域医療マインド」たるものを、次世代にわかりやすく言語化して、その魅力・やり甲斐を伝承していく作業に繋がると考えています。

紀宝町では、地域医療のおもしろさを発信していくプラットフォームとして、紀宝町地域医療研修センターを設立しました。町内の地域医療関係機関だけでなく、三重県地域医療研修センターや三重大学総合診療部と連携のもと、多くの医学生や研修医の方々（以下、学習者）に対して「優しさを技術として学べる町」を掲げ、地域全体で実習を提供しています。地域医療実習で何を伝えるか、これは学習者を受け入れる診療所医師にとってチャレンジングなテーマです。プライマリ・ケアや総合診療の数ある理論の一部を、日々の診療内容に合わせて提供していくことは簡単なことではなく、多くの学習者はへき地診療所の外来を見学すると「同じような患者に同じような処方をしている」「おしゃべりが多い」と感じるようであり、オリエンテーションの際に「地域医療では何を学べますか」と問うと、固まってしまうことが少なくありません。地域の基幹病院で1ヶ月過ごした後に実習に来る学習者の多くは「背景を意識した診療が学べます」というようになり、普段の暮らしぶりについて keyperson は誰なのか、日常生活動作はどうかを意識し始めるようです。具体的な能力として何ができるようになったとまでは表現できないので、おもしろい！という感想までたどりつけていない印象です。

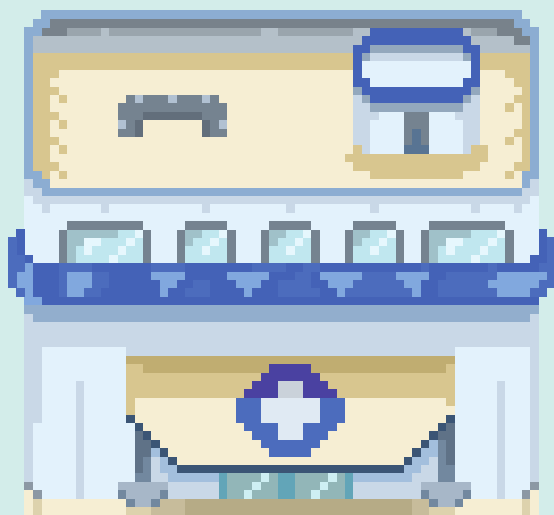
私は地域医療をおもしろいと感じる条件に①物語が意識できること②偶然の出会いや発見を楽しむこと③振り返りをして成長を感じられることがあると考えています。今回は冒険というキーワードから、これらについて解説してみようと思います。是非ともよろしく願い申し上げます。



診療所が面白い オンラインのアドベンチャー

紀宝町立相野谷診療所 所長
紀宝町健康危機管理官
紀宝町地域医療研修センター長
森本 真之助

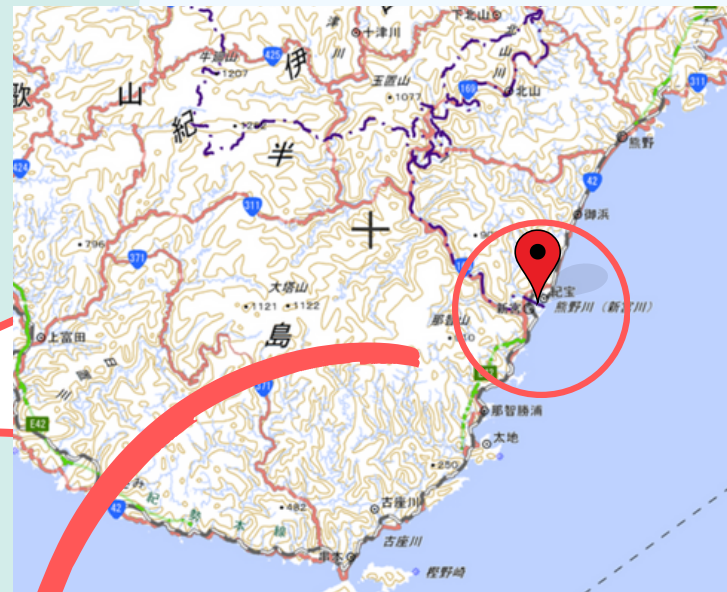
START



令和6年1月13日(土)@富士ソフトアキバプラザ5F
全国国民健康保険診療施設協議会
令和5年度 地域包括医療・ケア研修会
パネルディスカッション[II]



紀宝町

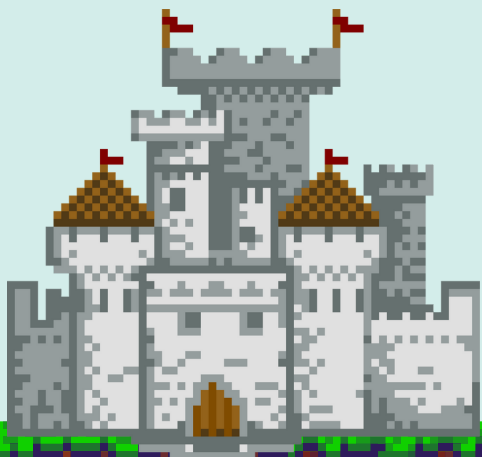


紀伊半島南部
三重県、和歌山県、奈良県の県境
人口約1万人
2011年の紀伊半島豪雨
防災タイムライン

(1月2日-紀宝町の姉妹提携自治体である石川県中能登町へ災害支援中)



アドベンチャー
『冒険』





冒険とは（私見）

「主人公に与えられたミッション[幹]があり
複数の物語が枝葉や根のように連なる」

KEY WORD

- ◆ 1. 物語
- ◆ 2. SERENDIPITY
- ◆ 3. 成長



◆ 1. 物語

冒険をおもしろくするのは物語との出会い
診療所では外来で無限に物語に触れられる

POINT

- 1. 多種多様な物語
- 2. 地域で紡がれる物語
- 3. 自分や家族も登場人物

外来約700人
→物語約700冊



◆ 2. SERENDIPITY セレンディピティ

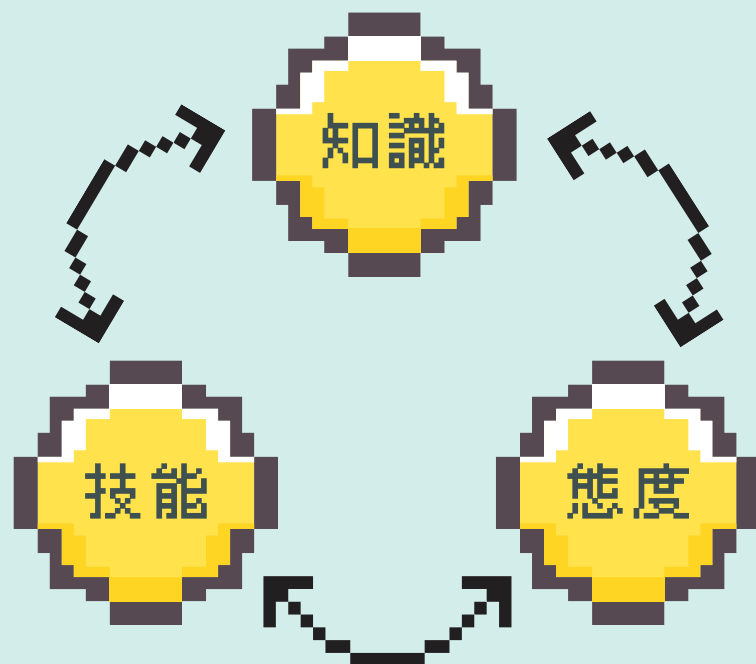
「別のものを探している時に、
偶然に素晴らしい幸運に巡り合ったり、
素晴らしいものを発見できる、
その人の持つ才能のこと」

イギリスの作家ホレスウォルポール(1754年)



3. 成長

冒険は体験の連続！
体験を振り返ることで
成長の機会は無量大！



成長

振り返り

体験





プレイフルラーニング Playful Learning

学習環境デザイナー 上田信行先生

探求学習とは？

(課題設定 ▶ 情報収集 ▶ 整理・分析 ▶ まとめ・表現)

- 特徴① (LOW FLOOR) : ハードルが低く、とっつきやすい
- 特徴② (HIGH CEILING) : 天井が高く、奥も深い
深掘りできる、上にも行ける
- 特徴③ (WIDE WALL) : 多様で幅広い選択肢

ワクワク



診療所の地域医療

ワクワク学べる！
おもしろい！

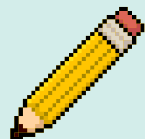


紀宝町地域医療研修センターを起業
(予算規模約400万円)

地域医療

PLAYFUL
LEARNING

【作ってみた感想】地域医療が医学教育における
Playful learningのフィールドとなれる可能性アリ！



地域医療×医学教育

スキル

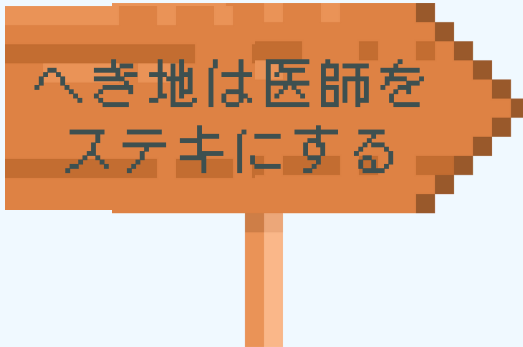
地域医療で磨ける能力

プロフェッショナリズム
professionalism

[参考]P-MEX(カナダで開発された評価法)

- 能力① 医師患者関係構築能力
- 能力② 省察能力
- 能力③ 時間管理能力
- 能力④ 医療者間関係構築能力

- ➡ 学習者に伝えやすい
- ➡ 自分自身が磨き続けられる



へき地は医師を
ステキにする



診療所が面白い～オンリーワンの〇〇〇〇

悩みつつ、楽しむ

鳥取県：大山町国民健康保険大山診療所長

井上 和興

「診療所の楽しさをみなさんに伝えてほしい」

このようなことばで、今回のご依頼をいただいた。大山診療所では、診療もそれ以外の仕事も「断らない」をモットーにしている。そのため、もちろん二つ返事でご依頼を受けた。

診療所で仕事をしていると確かに楽しい。確かに楽しいが、なんで楽しいかと聞かれるとあまりこたばにできないわたしがいる。診療所で実習している学生さんや一緒に働いている看護師さんに、「ぼくは楽しそうに働いていますか？」と聞いてみたが、まあそうですね的な回答しか得られていない。そのなかでいまのところの楽しさは以下のようなことばになっている。当日は、これらのことばを紡ぎながらお伝えしていきたいと思う（もしかしたらそうならないかもしれないが……）。

医学的なことについてのガイドラインは様々ある。ただ、そのガイドライン通りやろうとしても、上手くいかないこともそれなりの割合ある。まちづくりに取り組んでいるグループ、介護の施設、役場との連携は、実際には一足飛びにいかない……。それゆえに、その場その場にあるものを見つけ、タイミング良く組み合わせ、行動を起こしていくことが診療所の醍醐味である。この醍醐味を感じるには創造力が必要だ。ただ、創造力が必要ということは、悩む力を必要としていることでもあるとわたしは考えている。

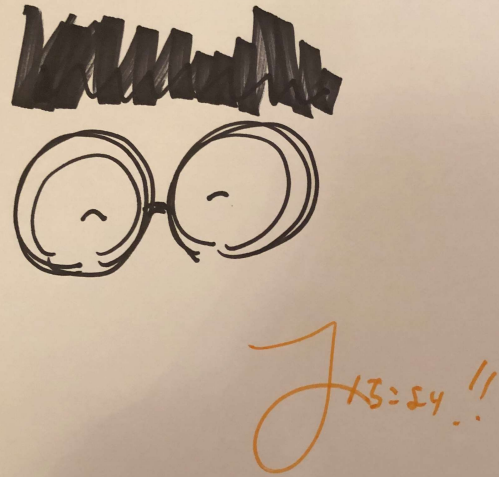
悩むからこそ、楽しい仕事である。

ただそれゆえに、伝わりにくい……。 「病気」の視点からだと単調にみえると語っている若手の先生もいるのも事実である……。最近読んだ論文にも書いてあった。ある地域の診療所で働いている先生が地域から受け入れられている姿をみると「その地域には入っていけないかなあ……」と思うのも事実である……。これは体験談である。わたしが頑張れば頑張るほど、大山診療所もそうなるのだろうか？

そんな葛藤を抱えつつ、でも楽しい仕事だなあと感じながら日々過ごしている。

悩みつつ、楽しむ

大山町国民健康保険大山診療所
井上 和興

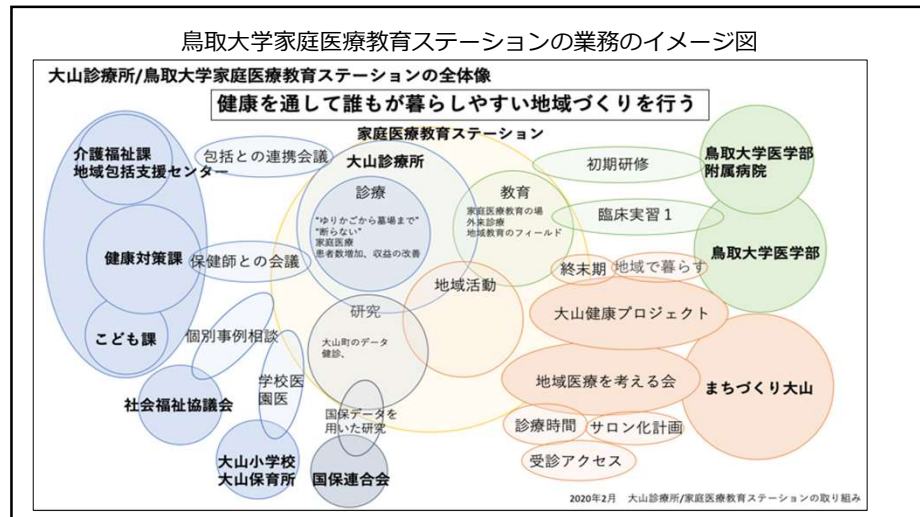


井上和興

2001年自治医科大学卒
鳥取県内の医療機関に在籍
2014年度より鳥取大学
2021年度より大山診療所

資格
ワークショップデザイナー
笑顔のコーチングファシリテーター
総合診療専門医、家庭医療専門医、指導医

[連絡先：kishindesu@yahoo.co.jp]



大山診療所のやっていること

- ・外来診察 (プライマリ・ケア)
- ・検査 (血液検査・検尿・胸部レントゲン・心電図・胃カメラ・エコーなど)
- ・保育所の園医, 小学校の学校医
- ・特別養護老人ホームの嘱託医
- ・訪問診察
- ・ワクチン, 人間ドック・健診などでの予防医療
- ・役場の保健師さんや包括支援センターの職員さんとの連携
- ・大山口診療所・名和診療所との連携
- ・サロン (水・金)
- ・地域医療官
- ・医学生さんや研修医の先生の教育

etc

くまの未来

起きることは目に見える

未来の予測当てにならないね

井上 和興

大山地区の概要 (2021年6月)

- ・人口 約1700名
- ・世帯数 約600世帯
- ・集落 24
- ・高齢化率 42.5%
- ・小学校 1
- ・保育所 1
- ・コンビニ 1
- ・医療機関 1

※エリア内に大山ホワイトリゾート・大山寺・大山古道など観光資源あり



大山診療所は。。。

1939年：村営として開設する。

2006年：常勤の医師が退職したあと常勤医師不在となる。

常勤医不在で、経営的に赤字で閉院が検討される。

2015年：地域から医療機関をなくさないために住民1200筆の署名で町長・議会に請願する(まちづくり大山の取り組み)。

2019年：鳥取大学家庭医療教育ステーション設置され、所長として常勤医師(家庭医)が着任する。

2021年：所長が交代し、現在に至る。

まちづくり大山の活動テーマ・目標

「大山を核とした活性化、助け合い、支え合いのまちづくり」

(目標)

1. 子どもからお年寄りまで、元気で楽しく安心して暮らすことのできる地域づくり
2. 組織を運営する資金を調達し、健全で自立した組織運営
3. 大山地区の自然・歴史の素晴らしさを伝え発信し、人が集える地域づくり
4. 他地域との交流を積極的に実施し、まちづくり活動に活かす

2019年地域医療を考える会設立

診療所医師（家庭医）と住民と医療・介護について一緒に考える場づくりを行う

（健康講座参加者の声から）

健康に暮らすためには？最期は自宅で過ごしたい！小児診療やケガの対応をどうする？ など

○住民と医師との関係性づくり⇒お互いに知り合う

○小さなことでも可能なことから取り組む



グループワーク後の各班の発表内容

- ・ 診療所は、ありがたい存在、愛されている、地域全体を診ることが大切
- ・ 診療所などの地域組織は、地域参加の窓口として重要な役割を果たしている
- ・ **中山や名和は地域医療についてどう考えている？他地域と一緒に考えてみては？**
- ・ 大山地区は夢を持って地域の問題解決に向き合っているが、他の地域は？
- ・ **社会は常に変化するので、その変化とともに、診療所のあり方への影響も考慮し続けることが大事**
- ・ 診療所は社会福祉と事業経営のはざまにある、社会福祉機能を重視するなど意志や方針が必要
- ・ より多くの地域住民が、この地域医療を考える会に参加してもらうのが望ましい
- ・ 子どもたちが集まる場所の必要性を感じる、点で移動、リアルでなくても一緒に遊べる時代
- ・ 同じ先生に長く診てもらいたい

2024/1/13

2023年度第2回地域医療を考える会資料より



【ちいきぜんたいもみる】 大山町の地域医療官

大山診療所 井上 和興

2021年度から、筆者は大山町の職員として働いています。大山町での肩書きの一つは、大山町国民健康保険大山診療所の所長です。もう一つは、健康対策課の地域医療官という肩書きがあります。このたび、地域医療官はどのようなものなのかをご紹介します。

筆者は、家庭医として大山診療所で仕事をさせていただいています。家庭医とは、図1に示すように「家庭医の3つのみる」を軸に活動を行っています（絵本「わたしのせんせい」より）。詳細は、以下の動画をみていただければと思います。中学生さん向けに作られたものなので、若干みなさんには物足りないかもしれませんが、



【わたしのせんせい】お仕事見学編

<https://www.youtube.com/watch?v=S-EOoNxKXXM>

※クリエイター養成スクールのデジタルハリウッドSTUDIO 米子と鳥取大学医学部地域医療学講座がコラボして、作成した動画です。



図1 家庭医の3つのみる

大山診療所は、一時期常勤医師のいない時期がありました。鳥取大学家庭医療教育ステーションが開

設され、2019年度から常勤医師として朴大晃先生が着任しました。2021年度からは、筆者が所長となっています。前所長、現所長ともに家庭医療を専門にしています。そのため、大山診療所では「家庭医の3つのみる」のうち、【いろんなはなしからみる】【かぞくのこともみる】を中心に診療しています。最近は、ご家族まるごと受診されることも多くなり、楽しくお仕事させていただいています。外来診療・訪問診療を行いつつ、予防医療（予防接種・健診・園医・学校医）などにも取り組んでいます。筆者の専門性から、地域で起きていることとつなげながら、どう困り事を解決していくか、患者さん・ご家族などと一緒に考えながら医療を行っています。

今回のテーマである大山町の地域医療官の仕事は、「家庭医の3つのみる」のうち【ちいきぜんたいもみる】に当たると考えています。地域医療官の仕事である【ちいきぜんたいもみる】とは、大山町全体の保健・福祉・医療やその外側にある交通・教育・経済など全体を眺めながら、大山町の町民さんの健康が維持・向上するように働きかけることです。この働きかけによって、大山町全体を今よりさらによりよい状態（well-being）にしていくことを目指しています。最近では、収入、学歴、教育、居住地、性別、国籍／人種など社会的な要素（健康の社会的決定要因）が健康格差を生んでいると言われていいます。家庭医として大山町の社会的決定要因の課題を探索し、今以上によりよい状態にしていくことが地域医療官としての職務ではないかと考えています。

現在地域医療官として、実際にやっていることは以下の3つが主な活動となります。

1) まちづくり大山との地域活動

大山町にはまちづくりに取り組んでいる地域自主組織は、それぞれの地区に10個あります。大山診療所がある大山地区には、地域自主組織のひとつであるまちづくり大山という組織があります。前所長であり前地域医療官であった朴先生の時から、一緒

に大山地区での地域活動を行っています。

まちづくり大山と共に、年2回程度地域医療を考える会を定期的に行っています。地域医療を考える会は朴先生の時から始まっています。当初は、「診療所をどう維持していくか」が主なテーマでしたが、最近では「看取り」「認知症」などの住民さんの関心事のテーマが扱われるようになっていきます。安定した医療を提供できているからこそ、テーマが変わってきているのかなあと感じています。また、各集落に出かけて行って、健康講座を開いています。集落で行った健康講座について新聞にも投稿いただいています(図2)。先日は、認知症をテーマにした映画をみんなでみて、対話する場を作りました。そのときに、「ご近所さんの変化にどのように気づいたらいいのだろうか?」という話が出ました。集落の中でお互いに興味を持ち合い、困り事を打ち明けやすい状況をつくるにはどうしたらいいかという更なる課題として抽出することができました。

2) 大山町の医療専門職(保健師・栄養士など)との連携

大山町の医療専門職(保健師・栄養士など)と共に大山町全体の健康課題を探索し、どう解決するか考えています。1~2ヶ月毎に1度、大山町の保健師さん・栄養士さんたちが取り組んでいること、悩んでいることを話す場を持ったり、健診受診率をどのように向上させていくかを話し合ったりしています。2022年に、町議会で脳ドックの助成事業を行うかどうかの議論があったことを保健師さんから相談されました。この時に、筆者が脳ドックの予防医療としての効果を調べ、保健師さんにお伝えしました。また、町議会さんたちとのミーティングにも顔を出させていただき、そのエビデンスを議場で説明する場を持つことができました。「医師自身の言葉は説得力がある。その他にも様々な健康政策に助言していただいております、いい取り組みにつながって

る」と、竹口町長からもお言葉をいただきました。

大山町役場の職員さん、保健師さんや栄養士さんたちと顔が見える関係を築くことができたことで、患者さんや住民さんの困り事があったときにすぐ電話して相談することができるようになりました。このことで、家庭医としての能力も上がり、大山診療所の医療の質向上にもつながっていると考えています。

3) 地域医療を担う人たちを育てる

大山診療所は、鳥取大学家庭医療教育ステーションも担っています。鳥取大学の医学生の臨床実習・初期研修医・総合診療専門医を目指す医師などの研修を継続して受け入れています。地域医療を今後担っていくであろう医学生さんたちや研修医の先生方の実習や研修では、より住民さんのニーズが届きやすいプライマリ・ケアの現場に身を置くことになります。患者さんや住民さんたちのニーズと医療者が必要だと思うことをミックスして実践していく役割を体感してもらうことを大切にしています。

2022年度の臨床実習は期間1週間で、1年間に医学生4年生が4人・医学生5年生が30人参加し、その中の10人が宿泊しました。総合診療専門研修プログラムの専攻医1人に対して、月2回の診療所研修を実施しました。また、2023年度には初めて初期研修の研修を2人受け入れることができました。

地域医療を今後担っていくであろう医学生さんたちや研修医の先生方が地域医療にネガティブなイメージを持っていることを見聞きしています。それは、先輩である私たちがあまり楽しんでいる姿を見せられていないからではないかと感じています。診療所へ派遣になる後輩の先生に、『お、それは楽しいね』と実感を持って言えるかどうかはとても重要な様な気がしています。1人所長の孤独感、責任の重さを伝えつつ、ともに実習・研修の場を創ってい



別所自治会(大山町)井上先生の講話を聞く会

▽とき 1月24日
▽ところ 別所多目的集会所(大山町)
大山公民館大山分館主催、まちづくり大山共催で、大山診療所所長の井上先生と町の保健師さんを交え、井上先生のよもやま話「自分らしく元気に暮らし続けるために」を聞きました。そして大山賛歌体操、保健師さんのお話と健康相談。雪の中、集落の皆さんがたくさん集まりました。ためになる話と徐々に体を動かかし、皆さんとても良い笑顔でした。
(記・山根操)

図2 日本海新聞(R5.5.3)

けるような教育現場にしたいと思っています。

実際の現場では、大山診療所での仕事と大山町の地域医療官の仕事はかなり重なり合っているところはあります。ただ両方の仕事に携わることで、診察室で起こっていることと大山町全体で起こっていることの行ったり来たりがしやすくなっていると感じています。どちらかに専念しないことによって、

様々な交流の場面にも出会うことができます。映画『魔女の宅急便』の主題歌で松任谷由実さんの『やさしさに包まれたなら』の中に“目にうつる全てのことはメッセージ”という歌詞があります。この言葉は筆者自身がとても大事にしている言葉です。大山診療所所長と地域医療官の行き来から新たなことを発見し、重要なメッセージとして受け止め地域での実践につなげていきたいと思っています。

感染症情報について

鳥取県西部総合事務所福祉保健局からの感染症に関する通知は、鳥取県西部医師会ホームページの「感染症情報」へ掲載しておりますので、ご確認いただきますようお願いいたします。

鳥取県西部医師会ホームページ 『感染症情報』

<https://www.seibu.tottori.med.or.jp/isikai/index-kansen.html>



「ムカデ出る元気で動く足元の迷いはあるが迷わず潰す」

昨年10月に筆者が中学生以来本
当に久しぶりに詠んだ短歌です。
この短歌は、学生さんと一緒に診
察中、突然ムカデが出てきた時に
詠んだものです。患者さんとおし
ゃべりしているときに、筆者の足
元に小さなムカデがいることに患
者さん、学生さん、筆者が気づき
ました。ムカデ自体を見たのが久
しぶりで、「潰そうか、なにかの
紙で捕まえて外に出してあげよう
か。でもなんだか気持ち悪いしな
あ、みたいな気持ちになりました。
短歌の面白さを教えてくださっ
た方にこの短歌を詠んだことを伝
えると、「うわー、先生短歌上手で
すねー」とほめてくださいました。
それから調子に乗って、短歌を詠
み続けています。日常で起こって
いることを観察し、その観察した
ことを言葉にしつつ、五七五七七
の形式に当てはめています。また、
この地区の短歌会にも時々参加さ
せていただき、短歌を継続して勉
強することができています。

短歌を詠み始めて、地域医療に
どのような影響があったでしょう
か。考えてみると、「物事の判断
をいったん保留して観察してみ
る」ということができるようにな
ったかもしれません。最近、診療
所の職員玄関に朝いるカエルやス
ズメと目が合うことがあります。
短歌のアンテナがあると、カエル
やスズメの動きをじーっと観察し
ます。観察をすることで、「カエ
ル(スズメ)はなにをみているだ
ろうか。どんな生活をしているだ
ろうか」という疑問が頭に浮かん



井上 和興

地域医療と短歌

大山町国民健康保険大山診療所 / 鳥取大学医学部地域医療学講座



できます。その疑問を短歌に表現
したくなり、言葉にするようにな
りました。ちなみにこのときに詠
んだ一首はこちらです。
「いつもとは色が違うねカエル
さんドアと同化だ二度見しちゃっ
た」

日常を観察し、言葉にすること
で、穏やかな気持ちになり、診療
に向かうことができるようになって
いるなあと感じています。物事
に対する「べき論」から少し距離
を置くことができるからかもしれ
ません。

筆者に短歌の面白さを教えてく
ださった方は、「自分が頭に浮か
んだ言葉を素直に使ったらいいん
です」と言っておられました。そ
のため、短歌に使用する言葉はそ
のとき頭に浮かんだ言葉で表現を
するようにしています。そうする
ことで、自分自身が使う言葉の傾
向に自覚的になってきました。マ
ザー・テレサさんの言葉に、「言
葉に気をつけなさい、それはいつ
か行動になるから」というものが
あります。短歌を詠むことで、自
分の使う言葉に自覚的になり、使
う言葉が変化し、それが行動に表
れ、心も穏やかになり、地域医療
にも変化が生まれている可能性が
あるかもしれません。若干飛躍が
過ぎるかもしれませんが。

皆さんは、ご自身がどのような言
葉を使って日々を過ごしている
か、認識をされているでしょうか。
日々使っている言葉に自覚的にな
ることで、日常の風景の見え方が
少し変わり、みなさん自身がご機
嫌な時間が増えるかもしれません。
(大山町)

講師略歴

高橋 通訓 (たかはし みちのり)

岩手県:国保金ヶ崎歯科診療所歯科長

◆経歴

1985年3月 岩手医科大学歯学部 卒業
1985年4月 岩手医科大学歯学部歯周病学教室 入局
1988年4月 国立秋田病院歯科
1990年9月 国保金ヶ崎病院歯科
2006年9月 国保金ヶ崎歯科診療所
現在に至る

講師略歴

森本 真之助（もりもと しんのすけ）

三重県：紀宝町立相野谷診療所 所長

◆経歴

2013年3月 自治医科大学 卒業
2013年4月 日本赤十字社伊勢赤十字病院 初期研修
2015年4月 紀南病院組合立紀南病院 内科医員
2020年4月 日本赤十字社伊勢赤十字病院 後期研修
2021年4月 紀南病院組合立紀南病院 内科医長
熊野市立紀和診療所 所長
熊野市立育成診療所 所長
2022年4月 紀宝町立相野谷診療所 所長
現在に至る

◆賞罰

2017年7月 第56回全国国保地域医療学会優秀研究表彰
「南海トラフを迎え撃つ 第3回紀南メディカルラリーの検証」

◆著書・論文等

The Experience and the Characteristics of Patients With Tele-ICU Implementation in a Rural Community Hospital. Yoshiaki Iwashita, Ayana Ishigame-Kitayama, Akitaka Yamamoto, Kyohei Itoh, Masako Takenaka, Shinnosuke Morimoto, Yasuhisa Yamamoto Cureus 15(7) e41971 2023年7月

Clinical Characteristics of Mechanically Ventilated Patients Treated in Non-ICU Settings in a Rural Area of Japan. Yoshiaki Iwashita, Shinnosuke Morimoto, Sukenari Koyabu, Kazuo Maruyama, Hiroshi Imai Cureus 14(1) e20931 2022年1月

◆学会及び社会的活動・その他

日本救急医学会（専門医）
日本災害医学会
日本地域医療学会（専門医・指導医）
日本プライマリ・ケア連合学会
日本DMAT隊員・統括DMAT登録者
三重県地域災害医療コーディネーター
紀南医師会救急・防災担当理事
紀南地域メディカルコントロール協議会検証医、プレホスピタル作業部会長

講師略歴

井上 和興 (いのうえ かずおき)

鳥取県:大山町国民健康保険大山診療所長

◆学歴

2001年3月 自治医科大学 卒業
2009年3月 鳥取大学大学院医学系研究科博士課程 修了
2022年3月 京都芸術大学通信制大学院芸術研究科修士課程 修了
2022年4月 北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科博士後期課程 入学
現在に至る

◆職歴

2001年4月 鳥取県立中央病院 研修医
2003年~2009年 鳥取県内の複数の医療施設で勤務
2010年4月 藤井政雄記念病院内科・緩和ケア科 医局長
2014年4月 鳥取大学医学部地域医療学講座 講師
2021年4月 大山町国民健康保険大山診療所 所長
現在に至る

◆賞罰

2021年度鳥取大学医学部教育功績賞受賞

◆著書・論文

「地域医療教育における電子ポートフォリオの有効性」(『日本遠隔医療学会雑誌』12(2), P123-126.)

「卒前教育と解決志向アプローチ-解決志向コーチング-」(『治療』98(9), P1414-1418.)

「地域医療体験実習にe-ポートフォリオを導入することで学生にどのような学びが生まれるのか?」

(『鳥取大学教育研究論集』7, P35-42.)

「パンデミック下でのオンライン実習—鳥取大学医学部地域医療学講座の場合—」

(『医学教育』51(3), P298-300.)

「アクティブ・ブック・ダイアログを活用したオンライン読書会—学習コミュニティ形成への試み—」

(『日本プライマリ・ケア連合学会学会誌』43(4), P145-147.)

「オンライン読書会—学習コミュニティを作るために—」

(磯部真倫(著)『医療者のためのWeb 会議システム活用メソッド』P167-179. 東京:中外医学社)

「胃ろうをした母の死への道のりはなぜ揺らいだのか」

(飯田淳子・錦織宏(著)『医師・医学生のための人類学・社会学』P177-184. 京都:ナカニシヤ出版.)

Fieldwork as a bridge between lectures and clinical clerkship: Medical students become the observer as participant. (J Gen Fam Med. 2021;00: 1-2. <https://doi.org/10.1002/jgf2.468>)

「コロナ下での地域医療実習の実際—鳥取大学医学部地域医療学講座の場合—」

(『医学のあゆみ』279(9), P889-894.)

◆学会及び社会的活動・その他

・日本プライマリ・ケア連合学会代議員

・鳥取県西部医師会代議員